第5学年 外国語科・第7学年 英語科 学習指導案

指導者　京都市立向島秀蓮小中学校　T1 5年担当 西井 慶
T2 5年担当 内海 拓人
T3 7年担当 森田 純子

1 単 元 名【5年生】Welcome to Kyoto!（“NEW HORIZON Elementary English Course 5” Unit 7 参照）
【7年生】This Year’s Memories（“NEW HORIZON English Course 1” Unit 11 参照）

2 単元の目標

【5年生】チームステージ（5、6、7年生のこと。以下「TS」）京都散策ウォークラリー（以下「WR」）で、外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるように、京都の観光地について内容を整理した上で話すことができる。

【7年生】TS 京都散策 WR を経験したことがない5年生に分かるように、WR の紹介ができ、外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるような京都の魅力を伝えることができる。

3 単元の評価規準〔記録に残す評価のみ記載〕

第5学年と第7学年の指導案をそれぞれ参照

4 生徒について（向島秀蓮小中学校では、義務教育学校として1～9年生までを生徒という呼称で統一）

・これまでの単元で、複数回にわたり5年生と7年生の連携授業を実施することで、緊張しながらも異学年と言語活動をすることへの抵抗感がなくなってきている。
・これまでの連携授業では、5年生は7年生からのアドバイスを生かして、話す内容がよりよいものに変容したことを実感し、学びの手応えを得ることができた。7年生は自分の質問やアドバイスが、5年生の成長に役立っている姿を見ることで、貢献している思いや達成感を感じられた。
・5年生は7年生のアドバイスが難しい表現で言えなかったことがあった。7年生はどんな質問やアドバイスをすれば良いのか分からないために、聞いているだけになっている生徒もいた。

5 本単元と研究の視点との関わり

【学習評価】	・中間交流では「どんな質問をしたのか（7年生）」「どんなことを付け加えたのか（5年生）」という視点を示すことで、それぞれの学年の生徒が自分事として質問や話す内容を考えることができるようにする。 ・ICT（ロイロノート）を活用し、連携授業前後の動画を比較して、5年生と7年生が共に成長を実感できるように進める。
【言語活動の充実】	・【ほんもの】【相手意識】【目的意識】を大切にし、常にめあてに立ち返るようにする。単元を通して、5・6・7年生のたてわりグループで実施する最終的な言語活動である『TS京都散策WRで、外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるように、観光地を紹介する』ことを常に意識し、主体的に活動できるようにする。 ・連携授業時のSmall Talkでは、7年生は本単元で学習した表現を生かし、質問を交えながら、これまでの京都散策について5年生とやり取りを進める。
【小小・小中連携】	・5年生と7年生で小中連携授業をすることで、5年生は話す内容をよりよいものにするためのアドバイスをもらって工夫すること、7年生にとっては5年生の成長に役立つことで自己有用感や自己効力感を高め、学習へのモチベーションを高めることをねらいとして設定する。 ・小中連携は5・6・7年生のたてのつながりを意識して学習を進められるように、ICT（ロイロノート）で作成した紹介カードや録音したカードなどで残し、振り返ることができるようにする。 ・複数の指導者が連携してTT授業を進めていけるように、生徒の状況や単元終末の言語活動を共通理解した上で、進捗状況や指導について教科会などで情報共有をする。

6 指導計画（記録に残す評価を行わない時間にも、目標に向けて指導を行う。 また、生徒の学習状況を全時間において確認し、メモ等を取っておく。）

第5学年と第7学年の指導案をそれぞれ参照。

7 本時について（【5年生】8/9　【7年生】8/9）

（1）目標　【5年生】TS 京都散策 WR で外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるように、京都の観光地について内容を整理した上で話すことができる。

【7年生】TS 京都散策 WR を経験したことがない5年生に分かるように説明することができる。また、5年生が京都の観光地について話す内容をもとに、発表内容がよりよくなるような質問や感想を伝えることができる。

（2）展開

	生徒の活動	指導者の活動	＊留意点　◇支援
導入	○挨拶をする。 ○本時の流れとめあてを確認する。		
	TS 京都散策 WR で外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるように、京都の観光地の魅力を伝えよう。		
	○Small Talk 「これまでの TS 京都散策 WR」	・	
展開	○Communication time① 「京都の観光地紹介（5年生）」 →質問（7年生）→再構築	・5年生は「京都にまた来たい」と思ってもらえるような内容になっているかを意識できるように、進め方を確認する。	＊5年生の話す内容を深めるためには7年生の質問や感想を伝えることが大切であることを確認する。
	発話の具体例 ： 本日5限実施の指導案「7 本時について」Communication time②参照		
	○中間交流① どんな質問をしたのか（7年生） ○Step by step 5年生は、自分の話すことに対して7年生が質問してくれたことをもとに、内容の再構築を行う。	・5年生の話す内容を深めるための質問について具体的に取り上げて、Step by step に生かせるようにする。	◇話す内容を再構築するのが難しい生徒には、発表を再度聞いたり、練習相手になったりして支援する。
	○中間交流② どんな事を付け加えたか（5年生） ○Communication time② ペアを替えて活動をする。	・質問されたことによる変容や再構築した姿を良い例として取り上げる。 ・話す内容を深めるような質問を見つけた時には、全体に共有していく。	◇ Communication time①で質問できなかったペアには、具体的な質問を一緒に考えるなどの支援を行う。
	S1: We have Kiyomizu-dera Temple. Do you know Kiyomizu-dera Temple? S2: Yes, I do. I like Kiyomizu-dera Temple. S1: Oh, nice! You can see *Kiyomizu-no-butai*. It's a big stage. You can see *momiji* in fall. It's beautiful. You can eat y*atsuhashi*. *Yatsuhashi* is soft and sweet. It's rice cake. I like *matcha* flavor. It's delicious. What flavor do you like? S2: I like *matcha* flavor, too. It's very delicious.		
終末	○振り返り ・5年生と7年生ペアで再度「京都の観光地紹介」をして録画し、これまでの動画と比較する。	・5年生と7年生のペアで連携授業前と後の動画を確認した後に個人で振り返りをし、連携授業の価値づけをする。	＊初めと同じ5年生と7年生ペアで、再度「京都の観光地紹介」をすることで、成長を感じることができるようにする。

（3）評価（5年生は、記録に残す評価。7年生は、目標に向けて指導を行う中での形成的評価）

話［発］：思態	TS 京都散策 WR で外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるように、京都の観光地について内容を整理した上で話している姿を確認する。（行動観察・振り返りカード分析）

「おおむね満足できる」状況と判断できる姿

【5年生】We have Kiyomizu-dera Temple. Do you know Kiyomizu-dera Temple? You can see *Kiyomizu-no-butai*. It's a big stage. You can see *momiji* in fall. It's beautiful. You can eat *yatsuhashi*. *Yatsuhashi* is soft and sweet. It's rice cake. I like *matcha* flavor. It's delicious. What flavor do you like? などの表現を用いて、京都の観光地を伝えるために、関係ある内容や聞き手が興味をもてるような情報を付け加えたり、既習表現を生かして内容を整理したりするなどして話している。また、継続的に最後まで話す内容をよりよくしようとしている。

【7年生】What's *Kiyomizu-no-butai*? What season do you like? I like *matcha* flavor, too. It's very delicious.などの表現を用いて、5年生が京都の観光地について話す内容をもとに、5年生の発表内容がよりよくなるような質問や感想を伝えることができる。